

昭和14年4月1日（土）

晴れたり曇ったり。永江氏切手請求。巖へ葉書出す。此朝市内売出し、短冊色紙街頭に張り廻し方、町々の人々にて営まれ居れり。来たる五日間大売出し。中尾氏来翰。定時出発、十分列車遅れ。大貞局員弟、補充入営の由、挨拶に来局。列車満員、立ちん坊多し。南新町下車、バス来合わせ乗る。珍しき位なり。夕食後髯剃り真の郷へ行く。島井氏夫妻来。樋口医師も来たり居らる。貝島、森、松尾の諸氏も見ゆ。有益の話多かりし。十一時半帰宅、途中降雨、和傘持参。山崎氏夫人と一緒に居たる為、余の傘に入りて途中まで送る。雨は次第に大降りとなる。湯暖房ありて助かる。

昭和14年4月2日（日）

終日降雨、歇まず。久子休み、手紙中尾氏に出す。林檎20銭にて四つ求め来る。火鉢を使用す。昨道子女専の山本先生かかり行きし様子。新聞を読み、早く休む。

昭和14年4月3日（月）

神武天皇祭。ラジオに教えられて国旗掲揚す。午前中晴れ、午後曇り。剃刀磨く。火鉢をやむ。桃の花綻ぶ。午後二時より市内に額縁を求むべく出発。新柳町にて電車券10求め、県庁前下車。大通りにて1, 20銭と云ふ。負けぬ故、他の店舗を探す。川端町にて同一のもの1, 10にて求め、猶三枚3, 20としたり。松屋前より電車に乗る。図書館前桜花満開。新柳町にて南京豆一合8銭、煎りつつ売り居り。新しい丈け一銭高しと云ふ。成る程店売りは一合7銭なり。天候は次第に雲去り、稍好天気となる。市内人出多し。四時に十分前帰宅。ニュースに間に合う。

北海漁業権問題は暫定的に成立の旨（東郷リトヴノイス外務人民委任との間に協定）東郷大使より通知ありしと云ふ（昨夜）。夜風静まり、十四日頃の月、皎々と窓硝子を射て室内明るし。夕食後髯剃る。久子来たり、蓄音器一時柳原先生より引上げて呉れと申出づ。火鉢配給あり。良く灰をかけて寝る。

昭和14年4月4日（火）

夜来降雨。六時より礼拝、朝食、七時三十分出発。額縁重し。降雨の為、バス及び電車に乗る。新聞休み、小倉で雨小歇み、途中降る。桜咲き風情ある駅あり。午後より雨歇み、時々陽射しあり。精算年表、検定書、保証書、職員調表等提出。中津局集配手、中某従軍の由にて暇乞いに来る。大津氏も私用にて見ゆ。中氏は土曜午前七時四十分出発の由。午後晴天、野口氏余より先に皈る。余六時退局。冷氣、電気炬燵再び持出し使用す。蚕業取締所の桜花、一二輪綻び初めたり。

昭和14年4月5日（水）

晴れ後曇り。麻生局長見ゆ。局に上がらず窓口にて話す。冷氣強し、恐る恐る股火せり。採用、退官、退職調票発送せり。午後六時退局まで仕事山積みせり。

昭和14年4月6日（木）

晴れたり曇ったりの天気、冷氣不相変強し。上津局長、神野久局長逝去の旨、栄町局長より電話あり。明日会葬の為、余も出発せんとす。午後六時頃皈る。

昭和14年4月7日（金）

夜来降雨、朝の間歇む、後再び降り出す。土曜日販らぬ旨福岡へ葉書出す。柳原先生へも発送す。髯剃り20。二時頃鶴居、栄町両局長臨局。花輪所持の為タクシーにて行く由。余は汽車にて行くことにせり。午後二時四十分、豊後町局長臨局。三時出発。降雨不歇、和傘永江氏より借用。羅漢寺まで往復90の二割引72銭。四時羅漢寺着。バス不具合、駅前にて容易に動かず。別にタクシーを傭い四人乗る。此時四時二十分、既に焼香済みたる旨電話ありと、駅前局員より通知あり。四時半上津着45。礼拝して再びバスに乗る。稀覯（きこう）の盛葬らし、余等の至りし際は、多数の会葬者続々引取りつつあり。僧侶も退去し其の後姿を見たるのみ。焼香は別に一ヶ所を増設したるらしく、入口にて焼香し退去する者も不尠目撃せり。販途のバスは20、雨猶不歇。七時過ぎ局に立寄り販宅。列車中にて不図、搦原先生、磯村主任菅、家原看護婦と同車、三郷行きの由。巡回相談の三日目らし。何とか謂う福日新聞記者も葬儀場より販り、豊後町長の紹介にて挨拶するも、先方にては忘却し居れり。

昭和14年4月8日（土）

朝、朔風強し。天気漸く晴れる。販りに林檎十ヶ60求め、赤坊に与える様提供。赤坊よりも子供の口に入りし方、多しと思ふ。明朝花見に行きたしと、巖より慫慂、赤坊を連れ総出勤を提案す。乳を持行くこと不可能と云ふ。四時間以内にて販宅せば、其の必要なからんと謂うも、愛子希望せざる旨にて不得已じ。此の夜停電、警戒警報ラジオにて西部防衛？司令部より発動。全街消燈せしなり、一時間余にて復帰？。

昭和14年4月9日（日）

野口氏休み、余出局。永江氏勤務。快晴、午前中巖来たり、往復切符を提出し去る。朝吹氏と一緒に先行したるもの。余、午後一時三十七分発にて出発。南京豆二合14求めて行く。野口氏悦子を連れ、朝吹氏夫人と駅まで迎えに来て居る。夏蜜柑食べ一時間余居る、此の間巖等遊びに行き、余と朝吹氏居残る。大貞某の貯金問題に付き、後藤寺時代のエピソードを噺す。三時十分頃出発。猶此日花見客は、十七銀行員の大園遊会の外、数組ありたるも、時局柄とて平年程の賑へを示さず。一時間程待居る。郵便局の方に悦子を連れて出掛く。午後三時五十分、臨時列車発車の旨、野口氏迎えに来る。大急ぎにて駅に至り、同列車に投ず。幸ひに腰掛けられ、多数の立ちん坊の中に幸運なりし。風呂沸く。飯りに悦子途中より負ふて流汗。風呂沸きしも寢（まこと）に難有かりし。夜は冷氣強し。良助より今夜か明日立寄る旨、葉書通知あり。帰省の途中模様を見んと思ひし為か、十七日間休暇を得たりとあり。炬燵を用ふ。

昭和14年4月10日（月）

晴れ、朝十時頃警戒解除の旨ラジオにて西部防衛？司令部より通知あり。飯りに草餅30、良助への茶菓子の積もりなりしが、良助不来。是れ亦、子供等のものになる。此の夜より炬燵を廃す。気温急に上昇暖かくなる。蒲団も一枚撤去す。風呂なし。夜うどん。夢に汚す。中津局より貯債50枚借り、是れは非公式にて、逓信局よりのが到着次第返戻すの目的なり。

昭和14年4月11日（火）

朝六時降雨、五分間計りにて歇む。後快晴となる。逋信局より貯債50枚送付あり。午前十一時半、良助来局。嘗て就職前、此の地に来たり、少時巖宅に居りしことあり。其の儘姉の宅に赴く。此夜愛子、良助、巖外出買物、土産物持参す。海魚の味醂漬け、野口氏の要請もあり同一品物求め来たり。一緒に実家に届けて貰ふことにす。巖夏蜜柑求め来る、一ヶ参銭と云ふ。酸味多し。和博起きて来たり食ふ。悦子夕食を摂らず寝る、起こして来たりたるも食を欲せず。再び寝る。良助は巖の部屋に寝る。蚊出で赤坊刺さる。蚊遣り香焼きし様子なり。

昭和14年4月12日（水）

朝来風強し。晴天なりしも午後より曇り。年金二口受取り。概要表保険還付金、計数出納簿と一致せず。守谷氏に尋ぬる以外途なしと認め中止す。三時過ぎ便所に行きたるに、入口に不思議の物あり。誠に草履にて踏みたるに、廣の固まりらし。用を済まして紙にて拭取るに、残りたる分多少あり。更に別の紙にて拭へたるも全く取れず。雑巾を探り、之を湿润して綺麗に取去り、知らぬ振りして帰り着席。坊やの仕業と思ひしに、母堂の失態と認め得らる。帰りに駅に至り時刻表を見る。日豊線の発着部分切抜かれあり。公德觀念なき驚くの外なし。窓口にて尋ねれば、午後八時急行が最終連絡なりとのことに、連絡時刻を調査して販宅。降雨少なし。悦子具合悪し。セメンを嚙ます。此の夜良助出発、巖送って行く。和博も随ふ。販りに土産貰ふてニコニコす。

昭和14年4月13日（木）

悦子、病恢復せず。昨、葉書運搬方遺忘局より電話督促。葉書にて注意す。販りて芹摘みす。巖葉書運搬の際、電報を持来る。佐世保よりとあり。巖をして読ます「チチキトクハナシアルスグコイ」。夕食を済まし午後六時三十分より仕度し、六時四十五分出発。巖より拾円貰ふ。駅に至れば六時五十七分発の列車は、七時五分発。其の為間に合ふ、3, 22。小倉にても連絡良く其の儘乗る。偶々待合い中、吉椿氏に逢ふ。箱崎までお伴す。鳥栖にて下車、十一時二十分着。三時間待合わす、夜寒し。

昭和14年4月14日（金）

支那人多数労働者風、南京豆を頬張るもの、四合瓶を傾くるもの、ストーブを囲んで喧々囂々（けんけんごうごう）。午前二時十一分長崎行きにて出発。早岐（はいき）経由は午前二時二十九分発。余は市内を一巡、同時間発にて出発。午前五時三十五分佐世保着。市バス半減、往復切符10にて名切り下車。三階に上がり神様を祭りある座敷を覗くも、夫れらしきなし。階下に至れば光子炊事し居る。聞けば文夫と光子との合作らし。此の日曇り。夜八時文夫と松原氏を訪ふ、不在、空しく販る。九時半神様の部屋に寝る。昌江と色々話す。余り馬鹿氣て話にならず。五時頃某弁護士書生来たり、意見を質す。余は問題の核心に触るるを欲せず。昌江食物を摂る様子を見るに、可なり食ふに驚く。是れまで素麺のみ食し居たるも、此の日より粥食に改めたりと云ふ。消化も支えなしとあり。両便のみはお厠に於いてす。

昭和14年4月15日（土）

細雨蕭条。九時墓詣でを済まし十時帰る。十一時松原氏来社通知に依り挨拶に行く。文夫余の側を離れず。余は駒次の問題より進んで、美松会社の株主の一人たることを昌江より聞き驚きたり。此れまで数回貴方と逢ふて居るも、一言斯かる問題に触れたることなし。余は今日まで全く知らずに過ごせり。速やかに取消して貰ひたき旨申入れる。昌江の方にてても松原氏に来て呉れと申来る。光子氏余の為に卵油を作る。金液10、金粉は文夫より貰ふ。午後五時七分発列車にて飯途に就く。鳥栖より準急、九時帰宅。夕食を摂る。

昭和14年4月16日（日）

広美来宅の由。午前九時過ぎ、折柄休みの久子迎えに行く。十時来宅。此の朝髯剃り半ばにして広美来る。正午過ぎまで色々話す。久子外出を約し置きしと見え、広美を促す。午後一緒に何れへか行き、三時過ぎ帰宅。昼飯馳走に預かりし由。余に猶話すべき問題を残し居るやにて、道子と話を進めつつあり。夕食後改めて言い分を聞く。野見山氏の推挙にて朝鮮砂金会社に入ることとなり、二十日過ぎ電報にて通知を待って出発の予定なりと云ふ。夫れまで取運びたるものを反対する理由なしと認め承知せり。六時バスにて飯飯途中、停留所まで久子洋傘を翳して送る。手紙中尾氏に出す。

昭和14年4月17日（月）

朝中尾氏手紙投函。暖房の湯を利用、申又洗濯。此の日半晴れ、三時過ぎ漸く乾く。三時より髯剃り、四時より夕食を摂り、四時半出発。乗車券の期限十七日迄なり。

而して佐世保より中津迄のを求めたる為、出発を急がざるを得ぬこととなりしなり。五時七分発列車に乗る。八時二十四分中津着。此日簗島局より年金参円受取。額縁の釘10、夏蜜柑三ヶ5、林檎四15求めたり。夕食は遅刻の恐れあり。林檎も蜜柑も食へる余裕なかりし。夢に汚す。

昭和14年4月18日（火）

半晴れ、仕事の残部片付く。債券更に30枚請求、中津局より転送。中尾氏より手紙、佐世保より回付越せり。午後六時退局。風呂沸き入浴後夕食、夏蜜柑夜頂く。

昭和14年4月19日（水）

曇り、公報により各種訂正ものに忙殺さる。臨時請求を物品請求書に依り発送す。昨日より巖畑の手入れを為し、草むしりを遣る。市役所への所得申告も、昨夜作成。関門海峡鉄道豆トンネル貫通、十一年九月起工、二年八ヶ月を要し、種々の困難に逢着せりと。

昭和14年4月20日（木）

曇り後少雨。逋信記念日、65銭支出茶話会開催。午後五時半より六時まで、余は味噌煎餅二三枚頂き早く飯る。雨小降りとなる。傘を翳さず飯る。野口氏、菓子残り持来る。

昭和14年4月21日（金）

朝少雨、長靴にて出局。途中降り歇み傘畳む。切手請求、後刻野口氏受取りに行く。概要表中、保険歳出金の項に於いて出納簿と不突合いの為、進捗を阻害されありしが、是永さんの発見により氷解、調製進捗、本日提出の運び



となる。回数券購入資金不足し、七円即時払いす。巖来局、話があると裏に案内。愛子妊娠三ヶ月入院手術の急務を、医師の注意に依り解明す。醫に非ざる余は反対すべき理由なく聴き置く程度に止めたり。飯宅後は其の噺に触れず旧三月三日雛の節句、ボタ餅造り夕食に頂く。余の部屋に人形を飾りボタ餅を供ふ。神様にも同断。

昭和14年4月22日（土）

曇り、出局の序でに駅に立寄り回数券を購ふ。21, 85銭支払ふ。中尾氏来翰。部長より通知、二十九日逓信局出張員臨席、保険事務打合会を耶馬溪羅漢寺駅前に開催、一局一名必ず出席のこととあり。午後一時二十分出発。満員、立ちん坊多し。小倉にて乗換列車も同断。五時到着。多少汗す。

昭和14年4月23日（日）

晴れ、澄子道子外出。午後四時近く飯宅。余の肴、野良猫に食われ、脚を踏入れらるとかにて、相当多量を廃棄し、別に求め来る。余林檎四15求め来る。朔風強く冷氣身に秘む。中尾氏に手紙書く、序でに投函す。久子今月一杯にて罷めるやに、澄子話す。五時過ぎ強風と共に降雨あり。間もなく歇む。夜一旦廃せし暖房を、澄子持来る。御蔭で寝た当時は快かりしも、寝汗するに至り気持ち悪し。此夜靖国神社臨時大祭、一万余の英霊を合祀する荘厳な鎮魂帰神の祭りを行はせらる。

昭和14年4月24日（月）

晴れ。十時澄子道子、聖戦大博覧会に隣家の娘さんに行く。猶子猫を産み、多分全部棄てられたるものの如く、

母性愛を感じ泣くこと甚だし。平常路傍のものの如き玉ちゃん、子猫をなめ廻し、玉ちゃん憤（いきどお）って唸る。巖より来信、四五日中入院加勢に来て呉れと。澄子当惑の態、澄子等四時過ぎ飯宅。夕飯の仕度にかかる。久子午後六時頃帰る。猿人形持来る。クリームパン二つ貰ふ。人形机上に飾る。暖房使用。

昭和14年4月25日（火）

朝来曇り、冷氣強し。今日靖国神社に天皇陛下行幸、十時十五分黙祷遊ばされ、全国同時刻一斉黙祷。余も南東に向かって一分間黙祷す。此日剃刀磨き中、野辺良助来る。中津に二泊せし由。午後より幾分暖かくなる。午後五時半夕食後、良助今泉に下宿する同僚の家に赴くとして辞去す。一泊を薦むるも、約束せし如く見えるに付き、意に任せたり。理髪、髯剃りす。此日関門国道豆トンネル貫通。昭和十二年五月十四日、陸上試験を開始し総工費51万900円、延べ労働人員約9万人、門司側豎坑深さ60メートルは同年八月九日、下関側豎坑深さ70メートルは同十一日着工、引続き豆トンネル掘鑿に入ったもので、トンネルは高さ2,5メートル、巾2,2メートル、一年九ヶ月にて2インチ大の鑿穴を残し、明日開通せしむることとなれり。良助に莩（たばこ）を出したが持って行かなかったことを、出発後気付いて後を追うたが、停留所間近で発車し、空しく飯れば、道子先廻りして帰宅し居る。之を質せば、バスに乗れば方角を失する惧れがあるとて、徒歩で行くと云ふ故、川端まで見送る由。道理こそと思ひぬ。莩は澄子に持たせ、巖に遣ることにせり。蜜柑10求め、一つ食へたるのみ。

昭和14年4月26日（水）

高島米氏の講話は道（さす）がに名士、寸分隙がない、寸陰を惜しみ之を聴く。朝来降雨、バスに乗る。時間が剰る。新聞を買ふ。澄子は後刻中津に出発する由。中津に到着しても雨歇まず。六時飯れば澄子来て居る。入浴、信子種痘の為、調子が悪いと見え、頗る不機嫌なり。珍しく赤坊を入浴せしめず、余独り湯に入る。夜に入りても信子泣く。愛子抱き守りする如し。

昭和14年4月27日（木）

晴れ曇り相半ばす。昨夜より冷氣。永江氏切手請求。局長会は六月七八両日の由、通知あり。三十日は為替貯金窓口事務を取扱ひ、郵便も午後四時まで取扱ふことに通牒あり。給料交付、六時帰宅。芹摘みす。澄子来たり、巖の態度を非難す。野口氏を福岡に連れ行く旨に就いては、澄子大いに反対の模様。此の際連れて行かぬと慰撫す。夜巖に口は人を殺し、又人を生かす、対手を憤らす如きは拙の拙なるものと注意せり。拾円例の通り与ふ。冷氣強く二度入浴。赤坊機嫌悪く、愛子起きて抱き居ること、前夜に変わらず。信子最も甚だし。

昭和14年4月28日（金）

快晴、珍しく上天気暖かくなる。中尾氏来翰。峯氏より二十五日結婚問題に付き、正式に通知ありたる趣を以て、日取りの件も余の意向に依り決定の由なり。此日愛子入院、夜に入り手術の由。

昭和14年4月29日（土）

天長節。朝の間晴れ、次第に曇り。羅漢寺耶馬溪樓に

於ける保険年金事務打合せ会に臨む。午前九時出発。羅漢寺行き往復72。一つ松、栄町、豊後町代理、今津、途中より大貞公園等、同列車に乗込む。三十分着。案内係乗車、沿道勝景の説明を為す。印刷物を配布す。会場に至れば、出張員も昨夜より泊まり居るらしく、部長さんも既に先着し居れり。出張員より説明あり、0時30分終了。一時より昼食、一円支出。二時十分発車、三時帰局。一つ松、豊後町同車。局に立寄る、永江氏より是永氏に対する家庭の状況を質す。実兄28才、最初大阪に本社を有する会社に勤め、上海に在り、次いで税関に入り青島税関を経て、最近海南島に転ず。毎月四十円の送金ありと。父は尋常六年の時死去、妹は中津局電話事務員。四時帰宅、少雨。巖新聞を見て居る。病人の経過を尋ぬ。未だ見舞わずと云ふ。其の不都合を難詰す。早速見舞ふ。余赤子の襁褓を野口氏と取換ふ。智子の分は甚だしく潤れて居る。信子を負ひ智子を抱きて外出一時間、巖迎えに来る。潮湯前に逢ふて智子を渡す。夜、野口氏より夏蜜柑貰ふ。澄子和博と三疊に寝る。光子氏齒軋りすること甚だし。此日山本記者、会升峯画伯の画撰紙一枚三円と云ふを配布、各人50銭或いは一円と云ふも、代理の出席者は決定の権利なく、其の儘持販る。

昭和14年4月30日（日）

朝来降雨、一時小歇みになりしことあるも、概ね降り続く。日曜なるも出勤。美松商事株式会社株主の一員に列せらる事実、十五日佐世保行きの際判明後、難を惧れ内容証明にて松原氏及び昌江宛に発送、其の関係なきことを強調す43。午後五時愛子の病院を訪ふ。手術後の経過良好と云ふも、寝汗出ると云ふ。発熱を伴うものと認むる

も、本人は意識せざる如し。附添婦検温す、七度と云ふ。さもありなと思ひぬ。販れば道子より澄子宛の葉書あり。中尾甚十郎氏来たり一泊、更に五月三日か四日に来宅の筈、余に販宅を促し来る。澄子、和博、悦子と三疊に寝る。今日は販宅遅れ、病院に行かず。